

世界の平和と自主権の守護者金日成主席

インド・チュチェ哲学研究委員会委員長
ビピン・グプタ

朝鮮民主主義人民共和国の金日成主席(1912-1994)は、20世紀にほぼ70年間、朝鮮革命を勝利へと導きました。金日成主席の一生は、自主の思想で一貫しています。

自主の旗印を高く掲げて

日本帝国主義の軍事的占領から朝鮮を解放するための闘争の壮途について金日成主席は、朝鮮革命が進むべき進路を模索しました。

その過程で金日成主席は二つの真理を発見しました。

一つは、革命の主人は人民大衆であり、人民大衆の力を信じて、彼らを奮い立たせなければならないということでした。

もう一つは、革命は自分の信念にしたがって、自分が責任をもって革命で提起されるすべての問題を自国の具体的条件と利益に即して解決しなければならないということでした。

主席は1930年6月、カ倫で新しい世代の朝鮮革命家たちで歴史的な会議を招集し、「朝鮮革命の進路」という演説を行いました。

二つの真理に基づいて主席は、自分の運命の主人は自分自身であり、自分の運命を切り開く力も自分自身にあるというチュチェ思想の原理を闡明しました。

その時から、朝鮮革命はチュチェ思想が明らかにした自主の道に沿って前進するようになりました。

自主の旗印の下、朝鮮の革命家たちは1945年8月15日、日本帝国主義を打ち破り、朝鮮を解放しました。

朝鮮式民主主義の道

解放された朝鮮はどの道を進むべきか。

解放直後、朝鮮にはさまざまな主義と理論が出現して人民を混乱に陥れました。

まさにこのような時、金日成主席は朝鮮の実情に合う進歩的民主主義の道を示しました。

進歩的民主主義の最も重要な特徴は、いかなる外部勢力にたいする依存や隷属をも排撃し、自主的立場と創造的態度を持って新しい朝鮮を建設することを求める自主でした。

解放された朝鮮での新しい社会の建設は、金日成主席が提示した進歩的民主主義の道を志向しました。

反帝反封建民主主義革命の課題として諸般の民主改革が行われました。

土地改革の実施によって、封建的土地所有が一掃され、農民は土地の主人となりました。

重要産業国有化法令が發布されて、肉体および精神労働に従事する勤労者が産業施設の主人となりました。

男女平等権法令によって、女性は男性と同じ権利を法律的に保障されるようになりました。

労働法令が發布され、8時間労働制と肉体および精神労働に従事する勤労者に有給休暇制が実施されました。

このような諸般の民主改革に基づいて、1948年9月、東方で初の人民の民主主義国家である朝鮮民主主義人民共和国が創建されました。

自主権守護の英雄的叙事詩

1950年6月、アメリカ帝国主義者は自らの世界制覇の野望を実現するために、揺籃期の朝鮮民主主義人民共和国に反対する侵略戦争を挑発しました。

アメリカ帝国主義者は、朝鮮半島のこの小さな地域の戦争に、自国の三つの戦闘武力と多くの追随国家の軍隊、南朝鮮軍、ひいては旧日本軍の残兵をも含めて200余万の膨大な兵力と数多くの戦争装備を投入しました。

朝鮮人民は再び帝国主義の奴隷になるか、それとも自主的な人民としての自己の尊厳を守るかという岐路に立たされました。

金日成主席は、朝鮮の人民と軍人を自主権守護の英雄的な闘争に奮い立たせました。

戦争の期間、金日成主席は前線と後方の数多くの部隊と単位に対する絶え間ない現地指導の道を歩み、独創的な戦略戦術を打ち出して人民と軍人を戦争の勝利へと導きました。

3年間の朝鮮戦争の期間、米国は156万7120余人の兵力と12220余機の戦闘機とその他の戦闘機材を失い、戦争での敗北を認めて停戦協定に調印しました。

創建されて間もない朝鮮民主主義人民共和国は、世界の「最強」を誇っていた米国を撃退しました。

自立経済の土台の強化

朝鮮民主主義人民共和国は、創建初日から自立的民族経済建設の路線を一貫して堅持してきました。

今日、朝鮮民主主義人民共和国の自立的民族経済は、完全に自らの力と技術で人工衛星を製作し、それを一回目で成功裏に打ち上げられる地位にあります。

このような成果は、決しておのずともたらされたものではありませんでした。

朝鮮戦争以降、社会主義諸国の統合経済を唱えていた者らは、朝鮮民主主義人民共和国をしてセフに加入するよう強要しながら朝鮮民主主義人民共和国の経済発展に障害をつくりだしました。

彼らは、すでに締結された鉄鋼材と機械も朝鮮民主主義人民共和国に与えず、各方面から圧力を加えました。

金日成主席は大国主義者のこのような要求を断固と排撃し、朝鮮の労働者と人民に自力更生の精神をもって生じた難関を打開していこうとアピールしました。

金日成主席のアピールに応じて、朝鮮人民はチョンリマ大高揚の炎を高く燃え上がらせ、工業化の歴史的課題を14年目に遂行しました。

強固な自立的民族経済によって、朝鮮民主主義人民共和国は政治における自主、国防における自衛のための物質的土台を自力で築くことができました。

その結果、社会主義朝鮮はソ連をはじめ社会主義を建設していた国々で次々と赤旗が下ろされていた混乱の中でも、自主の旗印をしっかりとらえていささかも揺るぎませんでした。

今日、金日成主席が一生、堅持してきた自主の旗印は、不敗の自主強国としてその威容を誇示する朝鮮民主主義人民共和国とともに輝いています。